

日本女大 石川松太郎 和洋女大の高野俊 松田久子
筑波大坂戸高 石川尚子 女子栄養大 島崎とみ子

「その3」 妊産婦、乳幼児の健康に関する記事を中心に

目的：近世は、人命尊重、とりわけ子どもの生命尊重の思想が高まったにもかかわらず、医学や生活諸科学も医療施設の普及も共に不十分で、妊産婦や乳幼児の死亡率は高かった。そのため、出産・育児は困難な事業であり、生活共同体全体の重大な関心事であった。それゆえに、独特な産育習俗も生まれ、子育て書や養生書などが数多く出版されて、その普及・発展もめざましかったのである。それらの中で、今回は『本朝食鑑』を取りあげ、その奥態の一端と特徴を明らかにしたい。

方法：第1報にひきつづき、『本朝食鑑』の巻之七・巻之八・巻之九・巻之十に記載されている魚介食品に関する記事から、妊産婦や乳幼児に効用があるとして勧められているもの、また、害があるとして禁止しているものを抽出し分析した。一方、これらの知識が、どのようにして子女に教えられたのかをみるために、女子教訓書の『女重宝記』(女子の生活全般について的心得や注意を書いたもの)と、『いなご草』(医学的立場で書いたもの)を取りあげ、その収録記事にも注目して、食医的観点のみでなく、女子教育の観点からの考察も試みた。

結果：上記分析を行なう中で、近世社会において魚介食品をめぐる食養生のあり方と特徴について、家政史および女子教育史の観点から、いくつかの興味ある結果が得られたので、ここに発表する。